

横雲ニュータウンオール電化プレセミナーで横越のまちの魅力を語り合う

3月6日、にいつE家つくる匠会などの主催により、セミナー「E・食・住で横越のまち魅力発見」が開催されました。これは、「横雲ニュータウン」を広く知ってもらうとともに、町の魅力を改めてとらえ直そうと企画されたもので、町内外から約50名が参加。

第1部の基調講演に立った沢海在住の作家、金森敦子さんが「歴史文化から学ぶまちづくり」をテーマに江戸時代の旅の様子を紹介。当時の旅行は、単なる物見遊山ではなく交流と情報交換の側面が色濃く、地域外からの情報が活性化につながったと語りました。

第2部では、金森さんを交え5人のパネラーによるパネルディスカッションが行われ、各専門の立場から横越の魅力について議論。他地域の事例紹介や住民どうしの交流の必要性が語られると、参加者の中でも、大きくうなずいたり熱心に書き取ったりする姿が多く見られました。

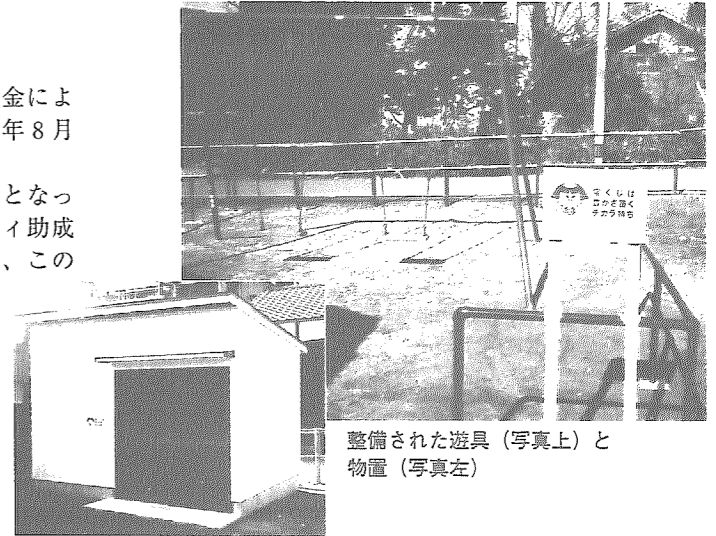


「宝くじ助成金」で東町会館で遊具・物置などを整備

東町自治会館は、東町住民の協力金や町の助成金により地域のコミュニティの拠点として建設され、昨年8月に竣工しました。

しかし、館内の備品や広場の遊具などは未整備となっていました。町自治総合センターのコミュニティ助成事業「宝くじ助成金」を申請。事業の採択を受け、このほど、東町の祭礼用具を収納する物置、屋外大型2連型ブランコ、テント、会議等に使用する座卓等を整備しました。

東町自治会館は、地域公民館活動やクラブ活動、地域子どもセンター活動の拠点となっており、地域住民の憩いの場として活用されています。屋外の広場に遊具等が整備されたことで、今後は子どもたちの歓声が響くことでしょう。



整備された遊具（写真上）と物置（写真左）

昔話で有名な酒呑み地蔵 小杉の法幢寺で年に1度のご開帳

3月20日の春分の日、小杉の法幢寺において、年に1度の酒呑み地蔵のご開帳が行われました。

名前の由来は、今から330年ほど前の秋、一銭も払わずお酒を買い続け、催促しても代金を支払わない小僧に店の主人が怒り、ある日ナタを投げたところ、小僧のかかとに当たりました。傷つけようと思っていなかった主人は心配し、その血の跡をたどって行くと、法幢寺のお地蔵様の前で消えていたことから名づけられたとのこと。

良い酒になるとか、井戸の水が良くなるなどのほか、所願成就のご利益があるとされています。

当日は町内だけでなく、近隣市町村、遠くは東京から、子どもからお年寄りまで多くの人たちが集まりました。信者たちによって美しい鈴の音とともに御詠歌が歌われ、お経が唱えられた後、参拝者たちは、酒呑み地蔵に長い列を作ってお参りしていました。



141名が新しいスタート 責任と希望を胸に成人式

3月20日、サンウイング横越を会場に成人式が開催され、今年の対象者141名のうち、色とりどりの着物やスーツで着飾った新成人94名が出席しました。

式をはじめには、二本木地域の小学4～6年生による「梨の実盆唄」が披露され、力強い太鼓や歌声で新成人を激励しました。

浅見町長から「20歳を迎えた皆さんには、権利と義務が付与されました。心身ともに練磨し、地域を育て、国際社会に挑戦しますます活躍されることを祈念します」と式辞が述べられたほか、来賓の方々から、期待と祝いの言葉が寄せられました。

これに対し、成人者を代表して田中洋輔さんは「家族や地域の方々、すばらしい先生方のおかげで成人を迎えられました。努力を忘れず人生を歩んでいきます」と成人を迎えるの抱負を披露しました。

中学生の時の先生も出席し、菊地法雄先生、五十嵐淳先生、斎藤敦子先生から、中学生時代の思い出の数々や、立派に成人を向かえた教え子たちの姿を見て喜び、今後に期待を寄せる言葉を送りました。

出席者たちは、厳粛に式に臨んだ一方で、式の前後では、懐かしい先生や友だちと再会を喜んだり、歓声を上げながら一緒に写真を撮る元気な姿があちこちで見られました。



祝 成人おめでとう



横越中学校卒業式 義務教育を終え、774名巣立つ

3月12日、横越中学校で卒業証書授与式が行われました。今年の卒業生は、男子53名、女子61名の計114名。

寺山校長先生から卒業生ひとりひとりに卒業証書が手渡された後、校長先生は「卒業し仲間から離れても力強く生きてほしい」と、「孤独に強い人になれ」という言葉を贈ります。夢と希望と

チューリップ染めのコサージュを胸に 101名の児童、小学校を卒業

3月24日、横越小学校で卒業証書授与式が行われました。今年の卒業生は男子50名、女子51名の計101名。卒業生は、昨年チューリップの花びらを使って自ら染めた黄色いコサージュを、真新しい制服の胸に付けて、拍手の中、緊張した表情で入場しました。

憧れを持って努力してください。活躍を心から祈っています」とはなむけの言葉を贈りました。

在校生代表の菊地亜美さんは、多くの学校行事の思い出を挙げ、「一生懸命に取り組み、挑戦する先輩たちは、私たちの誇りです」と卒業生との別れを惜しみました。卒業生を代表して斎藤孝史さんは「愛情を持って接してくれた両親、家族、多くの人たちにお礼を述べたい。困難な時は中学校での思い出をばねに乗り越えていきたい」と、感謝の気持ちと未来への抱負を力強く述べました。

式の最後には、全校生徒による合唱と、卒業生のみによる合唱が会場に響き渡りました。その後、たくさんの拍手の中で114名が夢と希望を胸に中学校を巣立っていきました。



卒業生全員から「色々な素晴らしい思い出がありました。ありがとうございます」と別れのあいさつ。最後に全校児童で長年親しんだ校歌を元気に歌い、拍手で6年生を送り出しました。